

家族生活

ジャック・ドワイヨン監督作品

サミ・フレイ/ マラ・ゴイエ/ジュリエット・ピノシュ/ジュリエット・ベルト/ アイーナ・ワル/シモン・ドラ・プロス

製作—シャルレル・プラバン(TF1)/ジャン=フランソワ・ルプティ(FLACH FILM) 脚本・台詞—ジャン=フランソワ・ゴイエ/ジャック・ドワイヨン

撮影—ミッシェル・カール/ジャック・モンジュ 編集—ニコル・ドゥデュー 録音—ミッシェル・ジフ

愛が交錯する父と娘の旅



(1984年/フランス映画/カラー/ヴィスタサイズ/98分/株にっかつ配給)

Copyright(c) TF1/Flach Film 1984

LA VIE DE FAMILLE

●父と娘の愛の形を具象化するジャック・ドワイヨンのもう一つの典型。
父と娘「三部作」の第二作。

'60年代のヌーヴェル・ヴァーグと'80年代のネオ・ヌーヴェル・ヴァーグの狭間に位置する'70年代に登場した監督のジャック・ドワイヨンは、昨年から今年にかけて続けに3本の映画(『ラ・ピラート』『恋する女』『イザベルの誘惑』)が公開され、更にこの『家族生活』の他にドワイヨン自身が出演し妻のジェーン・パーキンが協力している「15才の少女」、ベアトリス・ダル、イザベル・ユベールを主演に迎えた『女の復讐』が公開待機中であるなど、今一番注目されている作家である。

『家族生活』は常に他人と距離を置き、人を愛し切れないうる不器用な男に焦点を絞り、先妻と後妻の2つの「家族」の娘との精神的近親相手を描くロード・ムービーである。

この作品の前に撮った『ラ・ピラート』では、閉居状態での窒息しそうな男女の愛の葛藤を、ヒステリックなまでに激しく描いているが、この『家族生活』では一転して、父娘の関係をピデオという小道具をうまく使い、淡々とだがその内に秘めた心情を見事に描き、ドワイヨン映画のもう一つの典型を見る事ができる。

ドワイヨンはあるインタビューの中でこの『家族生活』について『ラ・ピラート』に比べれば大変愛想のいい映画に見えるが、これにだって深刻な事柄や悲しみ、苦悩がある。そして激しさもなければ叫ぶこともないが、ホテルのシーンが終わると決して愛想のいいという印象ではないはずだ」と語っている。

ドワイヨンのフィルモグラフィの中で、『放蕩娘』<'80>(La fille prodigue)と『怪物女』<'86>(La puritaine)とこの『家族生活』を「父と娘」三部作と呼んでいる。

●ドワイヨン作品を彩る充実したキャスト陣

娘との交わりに悩む父・エマニュエルを演じるサミ・フレイは役者としてばかりでなく演出も手掛け、最近では舞台を中心に活躍中のベテランである。

前妻との娘・エリーズを演じるマラ・ゴイエはドワイヨンとコンビを組んでいる脚本のジャン・フランソワ・ゴイエの実の娘である。長く彼女の成長を見届けていたドワイヨンにとって、父に対しある種シャイでナイーブな娘を演じるマラは、この映画にとってまさにうってつけの逸材である。

後妻の連れ娘・ナターシャを演じるジュリエット・ピノシュは、現在フランスを代表する女優

家族生活

LA VIE DE FAMILLE



●スタッフ

製作：シャルル・ブラバン(TF1)
ジャン・フランソワ・フラッシュ(FLACH FILM)
監督：ジャック・ドワイヨン
脚本/台詞：ジャン・フランソワ・ゴイエ、ジャック・ドワイヨン
撮影：ミッシェル・カーレ、ジャック・モンジュ
編集：ニコル・ドゥデュ
録音：ミッシェル・ジフ

●キャスト

エマニュエル/サミ・フレイ
エリーズ/マラ・ゴイエ
ナターシャ/ジュリエット・ピノシュ
マラ/ジュリエット・ベルト
リ/アイナ・ワル
セドリック/シモン・ドラ・プロス

に育ち、日本でも化粧品イメージ・キャラクターに起用されるなど人気が高いが、この映画に出演した当時はほとんど無名で、ドワイヨンが当初考えていた年齢設定より、ピノシュの実年齢が高かったため、最初はキャストイン

グする予定ではなかったのだが、最終的には彼女にひかれたドワイヨンが、後妻の連れ娘の設定をピノシュの年齢に合わせキャストイングされた。

他に残念ながら先ほど亡くなってしまったジュリエット・ベルトが、ベテランらしくしっかりと脇を固め、『なまいきシャルロット』『小さな泥棒』で注目されている若手のシモン・ドラ・プロスが端役で出演しているのも見逃さない。

●ドワイヨンの良き協力者・スタッフ陣

脚本のジャン・フランソワ・ゴイエは、ドワイヨンの初期の作品で、編集助手を務めた後、この『家族生活』から以後、ドワイヨンの全作品の脚本を担当するなど、ドワイヨン映画の良き理解者であり、協力者である。

撮影のミッシェル・カーレはEにテレビで活躍していた人物で、ドワイヨンの作品に初めて参加したが、撮影中は助手のジャック・モンジュがほとんどカメラを回し、自由な画面を構築する為、シーンの大部分をハンディカムで撮っている。

ドワイヨンはハンディ・カムの使用について「今回の経験は面白かった。なぜかというし、自由な画面、ふわふわと漂うような画面というものを発見したからです」と語っている。

●ストーリー

離婚歴のある男、エマニュエル(サミ・フレイ)は、後妻のマラ(ジュリエット・ベルト)とその連れ娘のナターシャ(ジュリエット・ピノシュ)と一緒に南仏のエクサン・プロヴァンスに住んでいる。2人はエマニュエルの存在がいつも気まづくなっている。今日も彼のひげそり用のカミソリの所在をめぐって口論となり、ナターシャはヒステリーを起こして家を出ていった。

エマニュエルはそれから前妻のリ(アイナ・ワル)の元へ行き、実の娘・エリーズ(マラ・ゴイエ)を連れ出し、車で旅に出る。旅の間、父は娘に課題を出す。娘がシナリオを考え、父がそれをピデオカメラで撮影しようというのだ。娘は様々なストーリーを父に聞かせる。途中でナターシャを家出先から連れ出す事に成功する。そしてストーリーは父と娘の微妙な関係に深く入り込んでいく。

2人はスペインに行き、プラド美術館でゴヤの絵を見ようとするが、あいにく休館だった。その日泊まったホテルで父は娘に最後の課題を言い渡す。ホテルの部屋に娘だけを残し、ピデオカメラの前に彼女を座らせ、父に対する真実の告白をさせようというのだ。そして彼女は、父のことについて語り始めた……。

7月13日(金)より独占レイトロードショー

連日9:30PM.上映(終映11:15PM.)●自由席定員制

●特別鑑賞券1,300円(当日一般・学生1,600円) 絶賛発売中
都内プレイガイド、チケットゼン、チケットぴあ、セゾン系各劇場でお求め下さい。



シネセゾン渋谷およびセゾン系劇場で、特別観賞券お求めの方に、ポスタープレゼント!

シネセゾン渋谷

道玄坂ザ・プライム6F ☎(03)770-1721